

負の表現

千葉県立千葉高等学校 教諭(美術科) 石橋則夫

～自分の中の負の要素を意識し作品にしてみよう～

対象生徒 高校1年(2単位×5週)

1, この授業で身に付けたい力

芸術表現の多様さを知り、既成概念にとらわれずに自由に表現する力。特に、「心の表現」に重きを置く。

2, 題材設定の理由

以前生徒から、小中学校の図工・美術の授業では、美しいものや感動したものを中心に制作しているというような傾向があり、技術的なところでの優劣で評価されるということを目にした。そこで、①あまり高度な技術を必要としない ②自己表現の自由さの許容範囲が広い ③自己の心情を掘り下げることができる ④自分で制作のプランが立てやすい という4つの観点からこの題材を設定することにした。

3, 使用する材料, 道具

紙粘土(スター粘土), 新聞紙, アルミ針金, ポリ袋(保管用), アクリル絵具, グロスポリマーメディウム(仕上げ用), 異素材(生徒が用意), 粘土ヘラ

4, 展開

| | | |
|---------|---|------------|
| 導入 | ① ピカソやアンソールなどの絵画作品、ティム・バートンやディズニーのヴィランズといった映画作品などを引用しながら芸術における「負の要素」を考えさせる。 | 1時間 |
| 準備 | ② 粘土の準備(適度な柔らかさになるよう練る)と新聞紙で作業ベースの作成をする。 | |
| 展開 1 | ① テーマを「顔」とし、自由な発想で作品をイメージする(イメージだけでよい)。 ② 思いのままに粘土で形を作っていく。 →あまり事前に綿密なプランを立てない方が面白い形状になる。 →作品の上下が決定した段階で取っ手になるアルミ針金を埋め込む。 →埋め込み用の異素材を用意させ、自分の作品に応じて素材の埋め込みをする。 (異素材を埋め込みにするか、後から貼り付けるかなどは自由に考えさせる) 注意 ・ 自由な制作を勧める一方、迫力のある立体表現とは何かといったことや壊れやすい形状についての解説を適宜行う。 | 1時間 |
| 展開 2 | ① 1週間程度の乾燥の後、彩色をする。 →絵具の濃淡や混色、重ね塗り等絵具の表情を意識してバリエーション豊かなものにする。 →貼り込み用の異素材を用意させ、タイミングを考えながら貼り込む。 ② グロスポリマーメディウムの薄め液(メディウム1:水1)を塗布して仕上げる。 →ツヤの状態を見ながら2~3回重ね塗りをする。 | 4時間 1時間 |
| 鑑賞 | ・ 自分の作品についてレポートを作成する。 ・ ほかの人の作品について鑑賞する。 | 1時間 |

5, 観点別評価

| 美術への関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な技能 | 鑑賞の能力 |
|---|--|---|--|
| 芸術における負の世界観を理解している。自分らしい表現まで踏み込んで、作品制作に真摯に取り組むことができる。 | 自己の中の負のイメージを具現化し、形、色の両面から豊かな発想力で作品化している。 | 素材の性質をきちんと理解し、的確に制作している。立体表現と平面表現の違いを理解し、立体表現ならではの迫力ある表現となっている。 | 巨匠の作品における負の表現を鑑賞し、その作品に込められている作者の意図を理解している。自分や周囲の作品を客観的に評価できる。 |

